

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【中学校】

【学校名等】

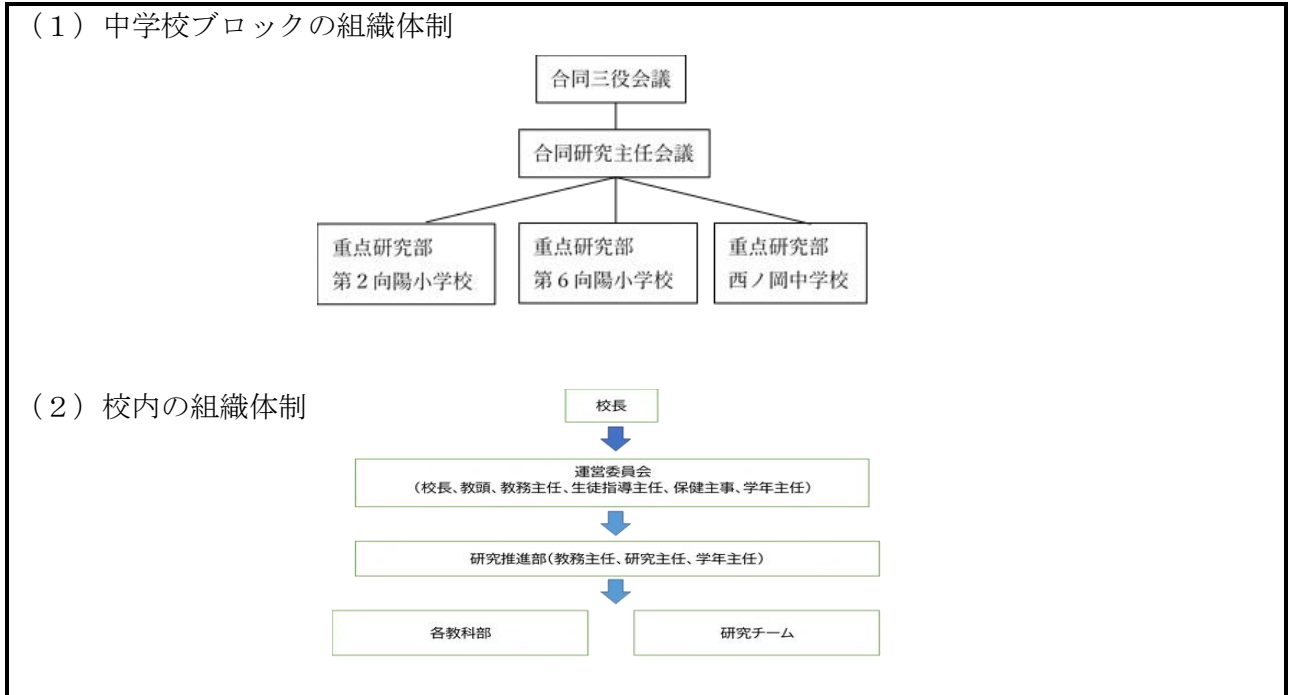
学校名	向日市立西ノ岡中学校							校長名	實川 明彦
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援				生徒数	3 6 8 名
学級数	4	3	3	3					
事業担当教員名	田中 真紀								
① 中学校区で目指す子ども像		・人とつながりながら、生涯にわたって主体的に学び続ける子ども ・自ら見つけた課題について、探究的に深く学び解決できる子ども							
② 目指す子ども像		生涯にわたり学び続ける生徒 (1) 挑戦する生徒 (2) 仲間を大切にする生徒 (3) 自ら考え、実行する生徒 授業における「話し合い活動」や日常の教育活動を通して、生徒の居場所づくり、あたたかな関係づくりを行い、失敗を恐れず、主体的に課題解決に向けた学習に取り組む生徒の育成を目指す。							
③ 目指す子ども像に対する現状と課題		・昨年度実施の生徒の授業アンケートによると、課題解決型の学習への全肯定的な意識を持つ生徒の割合は、3割以上であり、また、肯定的な生徒の割合は、7割を超えている。日頃の授業実践と生徒の意識との乖離が少なくなりつつある。 ・これは、昨年度授業改善で取り組んだ「生徒の話し合い活動を伴う課題解決型の学習」の成果が見られつつあると考える。今年度も引き続き生徒が自ら課題を見いだし解決していると実感できる授業の工夫に取り組みたい。							
④ 目指す子ども像に達するための仮説		・これまで取り組んできた「集団づくり」と「話し合い活動の充実」に引き続き取り組むことで、生徒一人一人が自己存在感や充実感を感じられる居場所づくりができ、失敗を恐れず、主体的に課題解決に向けた学習に取り組むだろう。 ・学級の集団づくり・人間関係づくりを土台とした授業の中で、生徒が「主体的」に取り組めるしかけづくりに重点を置き、課題設定の工夫の研究を進めることで、生徒一人一人が、効果的な話し合い活動により主体的に取り組むだろう。							

令和6年5月1日現在

【 1 研究主題】

生涯にわたり学び続ける生徒の育成 ～他者と協働して課題解決に挑む～

【 2 研究組織体制】



【 3 研究計画・具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	校内研（研究主題の確認、「主体的」に取り組む生徒の具体像の共有）
5 月	校内研（「主体的」に取り組むしかけづくりの共有）
6 月	校内研（「主体的」に取り組むしかけづくりの実践・交流） ブロックの教職員向けに、府教委（府総合教育センター）より、学びのパスポートの概要についての説明を希望します。
7 月	指導主事訪問
8 月	8月上旬＊学びのパスポート結果返却、第1回分析・活用研修会 校内研（結果分析と分析を生かした授業改善、個に応じた具体的な手立ての共有） 府教委指導主事による指導助言
9 月	校内研（授業参観交流での学びの共有）
10月	10月上旬＊第2回分析・活用研修会
11月	校内研（授業参観交流での学びの共有）
12月	校内研（授業改善と個に応じた具体的な手立ての成果と課題分析）
1 月	授業公開＊研究校交流会（予定）
2 月	校内研（生徒の変容の共有と次年度に向けた仮説の修正）
3 月	

【 4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全	3 1	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
全	4 3	人の話をじっくりと聞くことで、自分の考えがまとまることがある。	思考の柔軟性	
全	5 2	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ	チャレンジ精神	

全	60	普段の生活の中で、自分がみんなとちがう意見や本当の気持ちをいっても、だれからも攻められたり傷つけられたりする心配はない	心理的安全性	
全	75	国語（算数・数学、英語）の授業では、ペアやグループになって自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりする機会がある	主体深	

*** 5・6の分析の項目は削除しています。**

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

- A：仲間の良い点を共有することで、自己認知を正しく行えるようにする。
 B：授業内で、1年生の時の学習内容を復習できる時間を設定する。
 C：授業を通して、考えが変わるきっかけをどう与えるか。評価の仕方を工夫する。

集団としての具体的な指導・支援方法

- ・仲間の良い点（学習面・生活面ともに）を生徒と共有することで、生徒それぞれが、自己認知を正しく行えるようにする。
- ・授業内の対話の質を上げる。付けたい学力に関係ない内容を話し合わせていたのではないかという反省から、付けたい学力を明確にして、活動内容を再検討し、学びが深まるような内容で対話をさせる。
- ・生徒が自己評価（自分を見取る力）を付けるために、授業の中での振り返りの質を上げる。振り返りで、生徒が自分自身を振り返りができるようにするために、「ループリック」を提示し、その振り返りを「主体的に学習に取り組む態度」の評価に生かす。

【8 仮説の修正】

- ①「心理的安全性」の項目にも着目してみる。
 ②散布図のデータをもとに、生徒のタイプを4つに分けた。

a：学力が高い・数値が低い	b：学力が高い・数値が高い
c：学力が低い・数値も低い	d：学力が低い・数値が高い

タイプ別に、生徒を励ます方法を工夫する。

【9 具体的な取組内容の修正】

- ①ICTの利用から活用を意識した授業づくりを行い、生徒の個別最適な学びを保障できるように授業改善を行う。
 ②授業での振り返りの機会を活用して、自己評価（自分を見取る力）を育めるようにする。
 ③「学習方法」のデータも活用し、全体の傾向をつかみ、授業改善に生かす。

【10 生徒の変容（普段の様子から）】

- ①生徒が見通しを持って学習に向かうことができるようになり、授業の課題に、興味関心を広く持って取り組もうとする生徒が増えた。
- ②数学と日常の結び付きを感じさせる課題を設定し、生徒の主体性を引き出す工夫をして取り組んだ結果、その課題が生徒の印象に一番強く残った。
- ③設定された学習課題の意味を生徒自身が理解できるようになり、より真剣に課題に取り組む生徒が増えた。
- ④3年生の生徒の振り返りの記述において、前の単元と結びつけたり、1，2年生での学習内容を生かして考えたことや学んだことを書いていたりしており、3年間の学びをつなぐ姿がみられた。

【11 2年次の研究構想】

- ・4月当初の校内研修会で、1年間のスケジュールや研究内容などを共有する。
- ・教師と生徒の信頼関係づくり（学級づくり）、生徒の居場所づくりを意識して、学級経営をすることで、生徒の心理的安全性を高める
- ・職員全員で、引き続き「主体性」を引き出すしかけに取り組みながら、それぞれの教科がもつ面白さを生徒に伝えていく。
- ・来年度は、「振り返り」を通して、生徒自身が自分の学びを振り返り、自覚する機会を設け、学びを「自己調整」する力を育む。